

神保町の風土病(2)

文 飯塚 宏明

text by Hiroaki Iizuka

飯塚 宏明
院長

千代田区神田神保町。神保町の交差点から7軒目にある飯塚歯科は今年で34年目。すっかりカレーの街で有名になっってしまった神保町ですが、神保町は出版の街でもあります。

飯塚歯科に通ってくる患者さんはよく働く良い子ばかり。1日3回歯ブラシをしてフロスもして歯間ブラシもしてお口の健康にはとても気を遣っています。歯のない人もいないし虫歯になる人もほとんどいない。3カ月に1度のメンテナンスにも必ず来てくれる。でもその良い子たちのお口の中はとてもかわいそう。

神保町の良い子の皆さんは完璧に近いほど、プラークコントロールをしてくれて歯肉から出血する人はほぼいません。でも歯が痛いんです。全く虫歯でも歯周病でもありません。私よりずっときれいに磨けています。でも痛いんです。

なぜでしょう？

神保町の良い子たちは一生懸命働いています。出版系の仕事は2日3日の徹夜は当たり前。常に締め切りに追われながら、次の企画を考えています。編集の人は何百ページもの校正を抱え、「まるで遠洋漁業のような状態」で働いています。ちゃんと大きなモニターと

キチツとした椅子とデスクがあるにもかかわらず、その座る姿勢たるや惨憺たるもの。どうしたらそんな格好で座っていられるのかという格好で座っています。

えっ？座り方と歯の痛みに関係があるの？

ではキチツと足がつく姿勢で背筋を伸ばして座ってみてください。唇を閉じて歯と歯の間はわずかに隙間があるとあります。この隙間のことを『安静空隙』^{じやうけい}といって、これは歯を守るためのスペースなのです。今度はいつものように背もたれにドッカーリ寄りかかってみて下さい。歯と歯の間にスペースはありますか？ドッカーリ座ると本来顔は前上方を向くのですが、仕事をしなければいけない良い子たちは感覚器である目や鼻や耳のついた顔を水平に保とうとします。すると頭の重さで歯は押しつぶされて上下の歯は接触します。爪を押すと貧血状態となり真っ白になるように、歯も弱い力であっても長い間接触し続けると先端からの血流が阻害され、長い間正座していた時のように外からの刺激に対して敏感になります。熱いものがしみたり冷たいものがしみたり、歯と歯が当たると痛みが出たりします。全く虫歯もなく歯周

病もないのにです。もつとひどくなる詰り物が外れたり歯が欠けたりしてきます。全く虫歯がないのに歯の痛い人。歯を壊す原因は虫歯と歯周病の他に力！ちよつとだけ姿勢を気にしてみませんか？



飯塚歯科ホームページ

https://aidental-iizuka.com

Profile

1959年 神奈川県小田原市の米屋の長男に生まれる
1985年 日本歯科大学歯学部卒業
1988年 バイクで通勤中トラックと衝突し第1頸椎及び右手首粉砕骨折、絶対安静6カ月の入院生活を送る～医療従事者でありながらベッドの上で何もできない自分に出会い、これがきっかけで身体全体を考えるようになる～
1990年 千代田区神田神保町に「飯塚歯科」開設
趣味：ダイビングもうじき800本、サーフィン60歳でサーフィン始めて毎週通う。
音楽：ボサノバ-セルジオメンデス&ブラジル66、JAZZ-Idea6、J-POP-中森明菜

